

『いたらいたなりに、いなければいないなりに。
有れば有るなりに、無ければ無いなりに。』

嫌な人が傍に居たら、一緒に居たくないと思ふ嫌悪感が生じ、好きな人や頼りになる人が傍に居ないと不安感が生じ、必要な物が手近に無ければ不便に思い、不必要な物が身近にあれば邪魔に思う。生きていると云う事はほとんど身勝手なものです。

病氣や借財など無い方が良くと思ふものでも『あればあるなりに』地位や財産や名誉など有れば良いと思ふものでも『なければないなりに』、その刹那(瞬間)に欲しいとか欲しく無いとか感じて、永い眼で観れば、必要なもの unnecessaryなものは無いのです。その刹那刹那の感情に流されることなく一生懸命に、『あるがまま』に生きたいものです。